

新たな時代に求められる授業づくりに向けて

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会長
(北海道有朋高等学校長) 宮田日出夫

去る6月17日、選挙権を「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が参議院で可決されました。生徒たちが在学中に有権者となることから、これまで以上に高校での主権者教育が重要となります。このことは、主権者教育の中心となる地歴公民科の授業の在り方を否が応でも問うことになると思います。18歳を目標に国家及び社会の責任ある形成者となるための教養や行動規範、主体的に社会に参画する態度等を培う授業づくりが、今、地歴公民科に求められています。

旧社会科の時代から、地歴公民科は「暗記教科」と言われてきました。知識伝達型の授業が主流で、覚えろと行動等との乖離です。その一例が、選挙のたびに話題となる若者の低い投票率。知識・理解と選挙の重要性についての知識や理解があっても、それが政治や社会問題への解決に参画する意識や行動に結び付かないのです。また、一方的な説明中心の授業では学習が受け身になり、主体的に学ぶ意欲や物事を多面的・多角的に考える力が培われないなどの指摘もありました。

批判がありながらも、授業改善は進みませんでした。知識の量を問う大学入試と、入試に出題される用語を網羅的に記述した教科書が原因だと言われてきました。しかし、改善を妨げた最大の原因は、「知識がなければ考えることができない」といった知識偏重の学力観、指導観だったのかもしれない。

いづれか知れぬ主権者教育が重視される中で、旧態依然とした授業のままではいけません。入試制度も変わろうとしています。中教審高大接続部会の答申によれば、大学入試センター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト」(仮称)では、受験生の思考力・判断力・表現力等を中心に評価し、各大学の個別選抜では、主体的に学習に取り組む態度等を評価するとしています。やがて、大学入試を隠れ蓑にして知識伝達型の授業に終始することが許されない時代になるかも知れません。

有権者となった生徒の投票行動に、教師の意見や考えが大きく影響するといった懸念があります。これは、地歴公民科に限定された問題ではありません。政治的な中立等は学校の教育活動全体に求められます。ただ、社会的な事象を直接扱う地歴公民科では、特に配慮が必要だと考えています。

そのためには、社会的な課題等について、教師自身が多様な観点から深く学ぶことが大切です。指導者の認識不足から無意識のうちに偏った指導に陥る可能性がないとも言えません。政治的な中立を保つためには、何が争点になっているのか、考え方の違いは何かなどについて、客観的な視点から深く理解しておく必要があります。同時に、物事を多面的・多角的に考える力を培った多様な価値に気付かせたりすることが難しい、一方的に知識等を注入する授業を改めることが大切です。

昨今、「アクティブ・ラーニング」(課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)への関心が高まっています。言葉からは新しい学習のような印象を受けますが、これまでの地歴公民科の実践に同様のものが多々ありました。社会的な課題をテーマとしたディベートやディスタンス、小学校でさかんな問題解決的な学習、身近な地域を対象とした調査や地域巡検など数多くあります。

この観点に立つと、「アクティブ・ラーニング」に対応する授業改善の第一歩は、これまでの作業的・体験的な学習の指導実践に学び、積極的に取り入れていくことだと思います。その積み重ねが、説明を中心とした授業者の脱却し、教師と生徒との双方向のやりとりがある授業、生徒が主体的に問題を見いだす能動的な学習への転換に繋がります。そして、こうした能動的な学習をこそ、主体的に社会に参画する態度等を培う主権者教育において、最も必要とされる学習形態だと考えています。

なぜなら、「アクティブ・ラーニング」と今後求められる主権者教育は、育成する資質や能力で軌を一にしていると言っても過言ではないからです。これは「アクティブ・ラーニング」の必要性を述べた、次の文からも明らかです。「学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要である」(文部科学大臣諮問 H26.11.20)

選挙権年齢引き下げが実現した今、主権者教育の柱である地歴公民科への期待が高まっています。「暗記教科」と言われてきた地歴公民科が、社会的な課題等について考えて判断できる力を育成する。社会に参画する意識と態度を培う教科へとより大きく転換することが求められています。新たな時代に求められる授業づくりに向け、地歴公民科部会の皆さんと共に努力したいと考えています。

I 平成27年度高教研地歴・公民部会(教科別集会)のご案内

～ネットワークを作り、授業力を高めましょう！～

1 研究主題

(1) 平成27年度地歴・公民部会研究主題

「課題意識を持ち、主体的に学び考える力を育む学習指導の工夫・改善」

(2) 平成27年度専門部(分科)会研究主題

ア 世界史：生徒の主体的取組を促し、課題意識を育む授業の創造
イ 日本史：日本史教育の今日的課題と学習指導の工夫・改善
ウ 地理：地理教育の未来を育む授業創造と評価法の工夫・改善
エ 現代社会：現代社会教育の今日的課題と授業・評価の工夫・改善
オ 倫理：持続可能な社会を担う人間を育成する倫理の授業展開
カ 政治経済：確かな学力を育てる「政治・経済」学習指導の工夫・改善

2 期 日 平成28年1月8日(金)

3 会 場 北海道有朋高等学校

〒002-8504 札幌市北区屯田9条7丁目

TEL 011-773-8200

FAX 011-773-8300

※上履きは必要ありません。

4 内 容 (時間帯は予定)

9:00	9:30	10:20	10:30	12:30	13:30	15:30	15:50
受付	開会式 総会 各研究会紹介 (体育館)	休憩	講 演 ・各分科会ごと (使用教室は当日案内)	昼 食	研究発表・協議 ・各分科会ごと (使用教室は当日案内)		閉 会 式

5 講演・研発・司会・記録の依頼 分科会運営委員が依頼しますので、ご協力をお願いします。

6 交通機関

(1) 地下鉄南北線 麻生駅より

○中央バス 石狩庁舎前行き(麻17) 乗車時間15分 有朋高校下車 徒歩3分

○中央バス 石狩庁舎前行き(麻08) 乗車時間13分 イトーヨーカ堂屯田店前下車 徒歩13分

○中央バス 屯田6条12行き(麻01) 乗車時間11分 屯田小学校下車 徒歩13分

(2) 地下鉄東豊線 栄町駅より

○中央バス 石狩庁舎前行き(栄19) 乗車時間20分 北陵高校前下車 徒歩10分

(3) 札幌ターミナルより

○中央バス 屯田6条12行き(麻02) 乗車時間35分 屯田小学校下車 徒歩13分

※ 有朋高校の駐車場は運営者・講師以外にも若干の駐車スペースはありますが、満車の際は、校舎周辺には駐車スペースがありませんので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

7 研究紀要52号の執筆依頼

(1) 教科に関することで、25,000字以内(ワープロで25文字×1,000行)です。

(詳細は会報101号に記載)

(2) 申込みは、平成27年8月25日(火)までに事務局(有朋高校)へ論文概要を送付してください。

なお、執筆のための研究調査経費を地歴・公民部会から一部補助することができます。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。

Ⅱ 地歴公民科 各種研究会(夏の研究会)のご案内

～互いに学び、情報を交換し、夏に教科の力をつけていきましょう！～

研究会名称	北海道高等学校地理教育研究会			
会長名	宮田 日出夫 (北海道有朋高等学校長)	事務局長	佐久間 直 樹	
事務局	北海道札幌新川高等学校	札幌市北区新川5条14丁目1-1	TEL 011 - 761 - 6111	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成27年8月3日(月)～8月4日(火)	会 場	奥尻町教育委員会ホール
	○研究主題	参加料 19,000円(含 宿泊費)		
	○概 要	「離島における人々の暮らし～奥尻島の自然・産業・防災と関連づけて～」		
	○主な内容	研究テーマに沿って、奥尻島の自然・産業・防災と関連づけた巡検や講演を中心に大会を実施します。 北海道南西沖地震から22年が経過しました。地震の前後の様子を比較検証したり、奥尻島の特徴的な地形や島の暮らしについての学習会を予定しています。		
	1日目…講演(「奥尻の暮らしについて」奥尻町教育委員会 学芸員 稲垣 森太 氏) 巡検A(奥尻ワイナリー)			
	2日目…巡検B(津波館)、巡検C(奥尻島露頭)			

研究会名称	北海道高等学校世界史研究会			
会長名	佐々木 雅 男 (市立札幌大通高等学校長)	事務局長	今 井 一 吉	
事務局	北海道苫小牧西高等学校	苫小牧市青葉町1丁目1番1号	TEL 0144 -72 -3003	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成27年8月7日(金)	会 場	札幌市教育文化会館
	○研究主題	参加料 2,000円		
	○講 演	「国際理解を進め、歴史的思考力を育成するための世界史教育」		
		(1)「『歴史と記憶』をめぐる諸問題～資質や能力の育成につなげる歴史学習～」 講 師 村瀬 正幸 氏 (国立教育政策研究所センター教育課程調査官)		
	(2)「『他者』そして『自己』の理解のためにー日本史を世界において考える」 講 師 三谷 博 氏 (跡見学園女子大学文学部特任教授)			
	○研究協議			

研究会名称	北海道高等学校日本史教育研究会			
会長名	湯 田 恭 丈 (北海道小樽潮陵高等学校長)	事務局長	幡 本 将 典	
事務局	市立札幌大通高等学校	札幌市中央区北2条西11丁目	TEL 011 - 251 - 0229	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成27年8月6日(木)	会 場	札幌市教育文化会館研修室
	○研究主題	参加料 2,000円		
	○講 演	「日本古代史の研究動向」		
		(1)「天皇陵古墳を考えるー公開・保存・「活用」ー」 講 師 今尾 文昭 氏 (奈良県橿原考古学研究所)		
	(2)「桓武天皇と『続日本紀』」 講 師 小倉 真紀子 氏 (北海道大学大学院文学研究科准教授)			

研究会名称	北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会			
会長名	元紺谷 尊 広 (北海道根室西高等学校長)	事務局長	江 尻 憲 昭	
事務局	北海道大麻高等学校	江別市大麻ひかり町2番地	TEL 011 - 387- 1661	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成27年8月3日 (月)	会 場	かでの2・7 730 研修室
	参加料	2, 000円		
○研究主題 「倫理を教える者としての志～新たなる自我を求めて～」 ○道外研究視察派遣報告(午前の部) (1) 日本道德教育学会(東京) (2) 全国公民科社会科教育研究会福岡大会(福岡) (3) 日本社会科教育学会(静岡) (4) 道外高校視察(東京) ○講 演(午後の部) 演 題 「倫理を教える者としての志とは～教育の地平線～」 講 師 矢倉 芳則 (前北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会会長、前北海道大麻高等学校長) ○研究協議(午後の部) テーマ 「倫理を教える者としての志とは～新たなる自我を求めて～」 第50回という節目の大会を迎え、今一度教育者としての原点に立ち返り、倫理教育の在り方およびこれからの教師に求められる姿勢を講演を踏まえ、矢倉芳則氏との対談および質疑応答という形で参加の方々全員と考えていきたいと思ひます。 コーディネーター 村田 尋如 氏 (北海道教育庁教育指導監)				

研究会名称	北海道高等学校政治経済研究会			
会長名	佐々木 光 晴 (北海道函館陵北高等学校長)	事務局長	志 田 光 瑞	
事務局	北海道札幌稲雲高等学校	札幌市手稲区手稲本町6条4丁目1-1	TEL 011 - 684 -0034	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成27年8月4日 (火)	会 場	ホテルライフオーソ札幌
	参加料	2, 000円		
○研究主題 「北海道の未来を担う高校生のために、私達は今、何ができるか」 ○記念講演 演 題 「高校政治・経済で読み解く国際問題とは」 講 師 佐藤 優 氏(作家) ○特別講演 演 題 「戦後70年の今、考える民主主義」 講 師 山口 二郎 氏 (法政大学) ○研究協議(対談・質疑) テーマ 「子どもたちの未来のために、私たちが今、出来ること」 対 談 佐藤 優 氏(作家) 山口 二郎 氏 (法政大学) ○研究発表 テーマ 「地歴・公民科教育課程及び『政治・経済』教育に関するアンケート調査報告」 発表者 志田光 瑞氏(北海道札幌稲雲高等学校教諭) ○実践報告 「今日的な公民科教育の実践と課題」 報告者 篠田 健一郎氏 (東京都立西高等学校教諭、NHK高校講座「政治・経済」講師) ○学習会報告・教材報告				